

登場人物

ハル

キュー

マリ

加賀

カン

真つ白なガランとした地下室。

椅子代わりの箱や掃除道具が雑然と置かれている。

階段近くにシンク。そこにタオルとか歯ブラシが置いてある。泊まり込みの仕事なのであろう。宿泊している部屋はどこか他にあるようだ。

ハルとキューがひと仕事終えて階段を下りてくる。井倉ビルメンテの作業員である。

おそろいのTシャツに作業ベルト、ベルトにたわし、霧吹き、ヘラなどの七つ道具。手袋、不織布マスク。そのマスクをとって、

ハル ごめんキューちゃん、今度から気を付けるわ。

キュー ハルさんさあ、分かってないんじゃないの？わたし達一つ間違えると命を落とすような仕事なんだよ。気をつけるとかそういうレベルの話なの？

キュー、マスクを投げつける。

ハル だから、ほんとにごめん。こんどなんか奢ります。

キュー うそ！

ハル 嘘じゃないよ。

キュー うそですよ、ほら。

ハル なに？

キュー 手が震えてる。(ハルの手を指さす)

ハル (あわてて手を後ろに組む)いや、震えてませんよ。ぜんぜん震えてません。

キュー やっぱうそだ。

ハル ちがいます。そもそも、手が震えてるってことと、嘘をつくってことがどう関係するんですか。

キュー 何の関係もないよ。

ハル あ。(小声で)やられたー。

キユー わたしは何の関係もないと思うけど、ハルさんは何故かマズイと思った。まずいと思ったから手を引つ込めたんでしょ。

ハル …キユーちゃん。やめましょう、そういう人を陥れるようなことは。

キユー とにかく。うそはやめてください。

ハル はい。

キユー はい、じゃないでしょ。復唱。(霧吹きをハルに向ける)

ハル …はい。嘘はやめます。

キユー それと、薬品混ぜる時は一声かけてちょうだい。

ハル はい。一声かけます。

キユー 一声かけてくれたら安全です。走って逃げるから。

ハル あ、それ自分だけ逃げるってことですか？

キユー ハルさんも、自分の命は自分で何とかしてください。子どもじゃないんだから。
(霧吹き一回シュッとやってベルトに仕舞う)マリちゃんは？

ハル 3階の倉庫です。

キユー 大変なの？そこ。

ハル いや、倉庫と言ってもただのワンルームですけどね。ほらここです。

ハル、図面を見せる。

キユー 給湯室の隣の物置部屋じゃないの。そこに丸一日入り浸って…何やってるの？

ハル さあ。隅から隅まで磨き上げてるとかじゃないですか？

キユー ハルさん。午前中はまりちゃんと一緒だったでしょ。見てないの？

ハル 見てません。トイレの方に集中してましたから。

キユー (ため息)呼んできて。

ハル ……え？

キュー マリちゃんは今日から食事当番なんだよ。腹ペコのわたし達をなんとかする方が大事です。ハルさん、3階に行つて呼んできて。

ハル え？わたしが？何ですか？キューちゃんが呼びに行けばいいじゃないですか。

キュー わたしはこれから作業日誌を書くから忙しいんです。はい。行った行った。

ハル ……いやです。

キュー いやつて、ええ？あ！…ハルさんあれ信じてるの。あの、「出る」つてやつ？

ハル はい。

キュー ……うはははは

ハル 出るんですよ。

キュー はははははは…

ハル ほんとに出たんですよ。

キュー はははは、…何が？

ハル 話したくないです。とにかくあそこに行くのはいやなんです。

キュー それ加賀が言ったんですよ。信頼性ゼロだよ。

ハル ドアに「空室」つて札が貼つてあつて、その下に「ビィ」も「ドア」つて書いてあるんですよ。
手書きで。

キュー どこでもドアじゃなくて？

ハル 開けてもどこにも行けないんでしょう。その「ビィ」も「ドア」の向うから音が聞こえるんですよ。ノックの音が。

キュー どこに『も』ドアを向こうから？

ハル いや、もつと遠くで誰かがノックしてる音。

キュー ふうん。

ハル 次の日は遠くから誰かが叫んでました。「おーい」つて。

キュー 遠くから？

ハル 「おーい。もういいよー」って。

キユー それさあ、倉庫の窓が開いてて外の音が聞こえてるだけだよ。

ハル 窓はないです。四方は壁です。

キユー ハルさん、そのドア開けてみたの？

ハル まさか。風谷ビル平面図で分かりますよ。ほら。

キユー で、そこに今日マリちゃんが？

ハル 朝入ったきり出てこないんですよ。

キユー ……ちよつとわたし、行つてくるわ。

ハル あいつに気をつけてくださいね。

キユー ……あいつって？

ハル きつと、誰かいますよ。

キユー マリちゃん以外に？

ハル います。人間をおびき寄せせるために歌を歌ったり、話しかけたりするやつが。

キユー ハルさん、そのことをマリちゃんに話したの。

ハル 今朝話したら、わっはっはって豪快に笑ってました。ハルさんて騙されやすい人だなんて。

キユー わたしもそう思う。そんな幽霊みたいなやつ、居るわけないよ。

ハル ……幽霊！そうですよ。そんなやつが居たら、そいつは幽霊ですよ！

キユー いや、だれもそんなこと言っていないよ。幽霊みたいなやつは、居るわけないって言ったんだよ。

ハル でも居るとすると幽霊なんですよ！やっぱり居たんだよ幽霊……

キユー ハルさん……、とにかくわたし3階に行つてくるよ。今日の作業日誌お願いします。

ハル はい。

キユーが行こうとすると、らせん階段の方から音がする。何だろう。
何かが発発したような。

キユー 何？今の。

ハル 何かが発発したとか。

キュー 何が？

らせん階段の扉が開いて加賀が出てくる。スポーツニク本舗の作業員。別のTシャツ、作業ズボン、作業ベルト、ゴーグル、ヘルメット、ガスマスク。肩には直径15センチ、長さ1メートルくらいの塩ビのパイプを担いでいる。無言で中央まで歩き、ガスマスクを取る。

加賀 やっちゃった。

ハル 何を？

加賀 ちよつと水もらっていいかな。

キュー プートン加賀くん。休憩するなら自分の会社の休憩室に行きたまえ。

ハル 分かった。水なら俺が汲んでくるよ。

ハル、シンクに行く。加賀、パイプを置いて、ゴーグル、ヘルメット、手袋などを取り外す。

加賀 すまん、ハルさん。あのねキューちゃん、またうちの社名、言い間違えてたよ。「スポーツニク本舗」の加賀ですよ。

キュー 君の滑舌の問題で「ス」が聞こえにくい。おかげで「プー」が強調される。最後の「ク」は取ってつけたみたいだから省略だよ。「プートン」でいいだろ。プートン加賀くん。

加賀 確かに、「スポーツニク」じゃ発音しにくいな。誰がこんな名前にしたんだよ。

キュー で、なにをやっちゃったんだ？プートン加賀くん。

加賀 いや、大したことじゃないです。4階のトイレでちよつとしたトラブルが発生しましてね。

ハル、水が半分入ったコップを加賀にわたす。

加賀 ありがとうございます。いただきます。(飲む)

ハル ああ。でもちよつと水が出にくいんだよね。

キュー 水道の水が出ないの？

ハル いや、出るんですけど、ちよろちよろなんですよ。

加賀 やっぱり、水道管やっちゃったかな。

キュー …何かやったんだな。プートン加賀くん。

加賀 すみません！トイレの洗浄水がうまく流れなかったんで、屋上の給水タンクを見に行ったらですね。

キユー ああ、普通は1年に一回定期点検する給水タンクが、このビルじゃ5年はほったらかしだからな。

加賀 苦労してタンクによじ登って、やっとの思いで錆びついた点検用のハッチを、ここの開けるとですね・・・

キユー 開けると？

加賀 そこにはですね(目を大きく開けて何かを表現)

ハル はい、そこまで！それ以上はわたしの居ないところでやってください。

加賀 わあー！

ハル わー！やめてくれー！

キユー うるさい。

加賀 水がほとんど入ってなかったんですよ！

キユー 変じゃないの。給水されてないの？

ハル 配管が、詰まってるのかも。

加賀 そう。俺もそう思ったんで、スपोर्टニク本舗のマニュアルを読みました。

キユー プートンのマニュアルでは？

加賀 「水道管の中をいったん空にして、限界まで圧を上げた水をガツーンと流し、その勢いでポーンと障害物を押し流す」ってなってたんで、さっきやりました。

ハル それでどうなったの？

加賀 なんか、大きな音がして。

キユー あ。ポーンみたいなの。

加賀 爆発音みたいなの。

ハル 水道管が爆発。

間

キュー で、どうするのよ。

加賀 すみません。こんどからは気をつけます。

キュー プートンさあ。分かってないんじゃないの？わたし達一つ間違えると命を落とすような仕事してんだよ。気をつけるとかそういうレベルの話なの？

加賀 ほんと、すみません。こんどなんか奢ります。

ハル うそつき！

加賀 うそじゃないですよ。

ハル ほら！手が震えてるよ。

加賀 は？手は、震えてないですよ。それハルさんでしょ。

二人に見られて、ハル、手を後ろに隠す。

キュー やっぱりね。ハルさんだ。

ハル 何が「やっぱりね」なんですか。手が震えてるとみんなの嘘を引き受けないといけないんですか？

加賀 ……じゃ、わたしはこれで。

キュー いやいや、それで明日からどうするのよ。水道が使えないんじゃないやっちゃうよ。

加賀 水道屋に電話しときました。これです。

冷蔵庫にマグネットで貼り付けるやつ。キューにわたす。

キュー これ冷蔵庫に貼っつけてあったやつでしょう。(ハルにわたす)

ハル 「はや漏れ救急隊」最短10分で駆けつけます。それまでは我慢してください。70分8000円。

キュー 高くない？

加賀 そんなもんでしょう。明日午前中に来ますから、それまでにここ、この部屋お願いします。

ハル え？ここ？控室の掃除は最後でいいんじゃないの？

キュー ハルさん。ごめん。言いそびれてただけど、風谷ビルの地下から3階までをプートンに明け渡すことになったのよ。

ハル え？4階以外の清掃は井倉ビルメンテが落札したんでしょう？

加賀 事情が変わったんですよね。井倉ビルメンテはスプートニク本舗の子会社になります。株式の51%の公開買い付けに成功したようですから。明日から社長も交代になりそうですよ。

キユー それはどうか、プートン加賀くん。社長は今、ある投資ファンドと交渉中だよ。

加賀 ナトウ商会ですね。知りませんよ。泥沼の戦いになっても。

キユー そつちが始めたんだろ？

加賀 まあ、がんばってください。最後には我々が勝つことになってますけどね。

キユー 大した自信だな。根拠はあるんだろうな。

加賀 はい。スプートニク本舗は腹をくくったようです。井倉ビルメンテを乗っ取るためには手段を選ばない。少々法に触れてもやりぬけと。

キユー 何か汚い手を用意してるってことだな。

加賀 ははは。この業界は結果がすべてでなんですよ。細かいことにこだわってるやつなんかいませんよ。

ハル 加賀りん。

キユー …そんな風に呼んでるの。加賀のこと。

加賀 ハルさん。はずかしいからやめてください。

ハル いいや。加賀リン。お前そういうやつじゃなかっただろ。3階と4階の踊り場で鉢合わせした時、世間話して、たばこ吸って、お茶して、仲良くサボったじゃないか。

キユー さぼったんだ。

加賀 ハルさん。俺さ、偉そうなこと言ってるけど、スプートニク本舗の一番の下っ端なんだよ。

正社員ですらないんだよ。ただの契約社員だよ。言われたことをマニュアルどおりこなしてお金をもらう。トップの人達が何を考えて何をしようとするなことに、ぜんぜんぜん興味ないんだよ。

ハル トイレの給水タンクに洗剤を大量に入れて流したとき、加賀りん、言ったよな。

加賀 ハルさん。やめましょう。

ハル 加賀りん言ったよな！

加賀 ……「洗剤は…青かった」

キユー なにそれ。

ハル キューちゃん。まだ続きがあるんだよ。

加賀 「そして、どこにも神はいなかった」

ハル 感動した。ね。加賀りんは毎日トイレを掃除しながら神様を捜してたんだよ。便器の後ろや
タイルとタイルの隙間をブラシでこすったりしながら隅々まで探してたんだ。そしてそのすべてが
終わった時、ある充実感に包まれて言ったんだよ。「どこにも神はいなかった」って。

キュー ふうん。

ハル だって、いいかげんなことしてたらそんなこと言えないよ。相手は神様だよ。

キュー そうなのか？加賀りん。

加賀 キューちゃん。本気にしないでください。仕事ですよ。仕事だから真面目にやっってるだけです。

ハル 加賀りんのトイレ掃除は完璧なんだよ。特に女子トイレはね。

間

キュー なんか今、気になること言った。

ハル え？

キュー 女子トイレは完璧で、男子トイレはどうなの？

加賀 変なこと言わないでくださいよ。男子トイレもちゃんとやっていますよ。

ハル 見たことない。加賀りんが男子トイレ掃除してるところは。

加賀 いやいや。それ、たまたま見てないだけでしょ。違うんですよ、キューちゃん。

キュー それ以上近寄らないで。

加賀 ええー？

上の階から絹を裂くようなマリの悲鳴が。

ハル あれ？今の絹を裂くような女の悲鳴は？

キュー マリちゃんじゃないかな。

加賀 何かあったのかな？

ハル 3階の倉庫からかな？

加賀 3階の倉庫？「ど」にもドアを開けて、マリちゃん入ったの？あの部屋に？

ハル 俺は止めたんだよ。

加賀 大変なことになってるかも知れない。俺、見てきますよ。

キュー うん。

そこに上からマリが降りてくる。井倉ビルメンテのTシャツ。ベルトにさまざまな道具をぶら下げている。手には排水つまり用スポンジ。慌てている。マスクをとって。

マリ みんな！たいへんよ！大変なことが起こってるのよ！

ハル 出た？やっぱり出たんだ！

マリ いいえ、入ったのよ！4階の女子トイレに。

キュー 4階はプートンの担当だけど。

マリ 3階のトイレは水が出なかったの。だからわたし、4階のを借りようとしたの。そしたらさ。

加賀 ごめんなさい。4階も水出なかったでしょ。

マリ そう。でね、そこに置いてあった洗剤が、・・・あれ、プートン加賀！お前がどうしてここにいるのよ！

加賀 来週からここがスプートニク本舗の職場になりますからね。一言あいさつしとこうかなと。

マリ 何たわごと言ってるの。

加賀 たわごとって・・・

マリ あー！とうとう犯罪に手を染めることにしたんだな。わたしたちを皆殺しにして、仕事を独り占めする気なのね。

ハル ちょっとマリちゃん、落ち着いて。冷静になろうよ。

キュー はい、深呼吸ー

マリ はい、深呼吸。スー、ハー・・・いやいや、キューちゃん。深呼吸はだめよ。それだけはだめ。

キュー はあ？

マリ 4階のトイレにさ、オキシッコーが投入されてたのよ！

キュー オキシッコー？

加賀 あ。洗浄剤ですよ。

マリ それも、大量に。業務用10キロの空き缶がそこらじゅうに転がってたのよ。

ハル 加賀リンはきれい好きだからね。

加賀 うん。

キユー ちょっと待って。オキシッコーって、オキシなんだから酸素系洗浄剤よね。

加賀 はい。めっちゃ強力な酸素系洗浄剤です。

マリ でも、井倉ビルメンテで使ってる洗浄剤はよ。

ハル トイレデハイター。

加賀 トイレで吐いた？

キユー ・商品名としてはちよつとあれだけど。これも強力な洗浄剤だよ。水酸化ナトリウムと塩酸の混合水溶液だよ。

ハル と言うことは、アルカリ性？

加賀 あれれ？

マリ 「混ぜるな危険！」って言ってたわよ。空き缶に書いてあった髑髏マークの吹き出しが。

ハル いや、混ぜてません。4階と3階だもん。

加賀 ちよつと待ってくださいよ。ハルさん、風谷ビルの配管図ある？

ハル あるよ。これです。

ハルが出した図面をみんなで見ると、

加賀 4階の下水管はこれで・・・

ハル ここで3階の下水管と、合流してる。

キユー もちろん2階、1階、地下のトイレ(階段下を指さす)とも合流して、ここから下水道に放流。

ハル あれれれ？みなさん。これはちよつとまずいかもです。わたしさつき3階のトイレに「トイレデハイター」投入しちゃいました。

キユー まさか、プートン加賀の真似をして大量にぶち込んだとか。

ハル はいー。

加賀 ちょっと待ってください。スプートニク本舗のマニュアル見てみますから。

マリ そんなもの見なくてもどうなるか分かるわよ！「混ぜるな危険」なんだから危険なことが起こるのよ！

キユー それとも、もう起こってるとか。

間。上の階で不穏な音がする。ゴゴゴゴ……

ハル 危険って、どんな危険なことが起こるんだろう。

マリ きつとガスよ。混ざったとたんにガスが発生して……

キユー そのガスが3階から2階、2階から1階、1階から地下にゆっくり降りてきて地下室にたまる。

マリ う。ううー……(苦しむ)

ハル マリちゃん。

マリ 考えるだけでこの辺がイガイガするわー。うがいしよう。

マリ、シンクに行く。コップに水を汲もうとするが、小声で「水出ないじゃん」とか言う。

キユー 井倉ビルメンテのみなさん。ここには危険なのでいったん安全な場所まで避難しましょう。

ハル はい！

加賀 スプートニク本舗のマニュアル読んでいいですか。

キユー 一人で読んでくれ。じゃあプートン加賀。後のことはよろしくな。

階段の方へ移動する。

加賀 「大量の酸とアルカリが反応すると、爆発的に中和反応が起こり高温の液体が噴水のように吹き上がる。しかも塩素ガスが発生し、命の保証はない」

ハル そんなにすごいのか？

加賀 「だから混ぜてはいけない。決して」

マリ もう手遅れじゃないの！こんな時になんだけど。わたしの歯ブラシ知らない？

加賀 外に出るのは危険ですよ。あ。そのこのブラシ借りてました。マリちゃんだったんですね。

返しますよ。(出す)

マリ はいはい。って、ちよつとプートン！わたしの歯ブラシ何に使ったの？

加賀 いえ、ちよつと、こびりついてたあれを、はがすのに使いました。

マリ こびりついてたあれをわたしの歯ブラシで！？

加賀 あ。これ、歯のブラシだったんですか。すみません。大きさがちょうどいいから、ずっと使わせてもらってました。

マリ ずっと！？ずっとって、それ何日もってこと？あれをはがしたそれを毎日ここに戻してたってこと？

加賀 はい。ちゃんと洗って返しとききましたよ。

マリ 洗えばいつてもんじゃないでしょ！あたしは毎日その歯ブラシでお口を・・・もう怒った。今日こそ決着つけてやる。かかってこい、プートン！百戦錬磨のスッポンであの世に送ってやる！

加賀 え？そのスッポンって、ひよつとして、便器が詰まった時に使ってるあれですか？

マリ そうだよ。いまからこれでお前をスポスポしてやるからな。こい！かかってこんか！

ハル どうやってスポスポするのか見てみたい気もするけど、マリちゃん。それ、後にしよう。今は命の方が大事だよ。

マリ いいえ、このままじゃ乙女の怒りが収まらないのよ！

キュー わかった。決着つけましょう。でもその前にこれだけはやつとくよ。1階との連絡通路を閉じて空気の流れを止めるのよ。

間。

みんな はい。

みんな、マスクをして地下に通じるドアを閉める。

ハル キューちゃん。さっきの話だと水道管が破裂してるんですよ。3階と4階の排水はまだ混ざってないんじゃないかな。だったら今のうちにここを脱出した方がいいよ。

キュー でもハルさん。もし混ざってたら命の保証はないんですよ。

上から何か反応する音がする。ゴロゴロゴロ・・・

マリ なんか音がしてる。

加賀 携帯は・

ハル 地下だけ圏外。

加賀 そうだった。

マリ …ちよつとサブくなつてきた。さつきより。

ハル あ、暖房が切れてるかも。

加賀 それまずいっしょ。この気候で。

ハル このビル電圧が不安定だからね。

マリ さぶさぶさぶさぶー。

キユー みんな。明日の午前中には救急隊が来るからそれまでの辛抱だよ。

マリ 救急隊が？

ハル はや漏れ救急隊。70分8000円。

マリ けつこう取るのね。ええと、ちよつと失礼します。4階でしそびれちゃったのよね。さぶさぶさぶさぶー。

マリ、トイレへ行きドアを開ける。

加賀 ええ？

ハル マリちゃん。トイレはダメだよ。水が流れないよ。

マリ 大丈夫、一回分くらいならこのタンクに残ってるわよ。

加賀 ちよつと待つてくださいよ。もし、4階と3階の排水が混ざってここまで流れてきてるとしたらですね。逆流して大変なことになりませんか。

キユー マリちゃん。我慢しよう。

マリ ええ？いつまでがまんするのよ？

ハル 明日まで我慢しよう。

マリ できるわけではないでしょう、そんなこと！

加賀 ええと。このバケツでどうでしょう。

加賀、バケツを持っている。間。

マリ プートン加賀。お前、それどういうつもりだよ。そのバケツでどうしろってんだよ。

加賀 だって他にどうしようもありませんか？はい。

マリ 「はい」って、乙女がそんなことできるかよ！死んだ方がまだよ！

加賀 気になるなら俺あつち向いてますから。

マリ あたり前だろ！でもそういうことじゃないんだよ。お前、なんにも分かってないな。

キユー みんな。聞いてほしい。わたしたちは今、命の危機に見舞われている。そうでしょ。

マリ ほんと、プートンのせいで大変なことになってるよ。

加賀 すみません。

キユー 今ここで、非常事態を宣言しましょう。

ハル キユーちゃん、何それ？

キユー どこかで読んだことがあるんだよね。災害とか事故とかで人間らしい普通のことができなくなったときにさ、非常事態を宣言して、その間に起こったことは、後でみんなのリセットすればいいって。

加賀 リセット？

キユー ここで起こったことはすべて、無かったことにするってこと。

マリ そんなことできるの？

キユー そうじゃないと悲惨な思い出になって一生苦しむことになるじゃないか。

ハル トラウマだよ。中学校の遠足でさ、俺チャック全開だったんだよね。しかも好きだった子にチャック全開で一緒に弁当食べようって言ってたんだよね、すごいでしょー？

加賀 すごいな、ハルさん。そりゃ、一生苦しむな。

ハル あ、しまったー！いろいろ思い出してきちゃったよ。どうしよう。

キユー ここでこれから起こることは非常事態のなかで起こった特別なことなんだよ。突然仕事がかんセルになって、ポツカリ開いた平日にふらりと入った映画館で見た、どこか遠い国の字幕の映画。不思議だなあってちよつと思つて、すぐに忘れる。そういう映画みたいな。

加賀 しかたないっすね。

マリ お前が言うな。で、どうすればいいの？キニーちゃん。

キニー みんなが賛成ならそれでいいよ。非常事態を宣言します。これから起こることは後ですべて忘れます。みんな、それでいいわね？

みんなゆっくりうなづく。加賀、バケツをマリにわたす。

マリ しつこいぞ、プートン！

加賀 3階の倉庫で何してたんですか？

マリ 3階？もちろんお掃除よ。隅々まで磨き上げてました。

ハル 出たんでしょ。

マリ 出たつて、ええ？何が？

加賀 大丈夫ですよ。どんな秘密をしゃべっても、明日になって救急隊が来たらみんなでリセットしますから。そうでしょ、キニーちゃん。

キニー そういうこと。マリちゃん、何かあったの？

マリ いやいや、たいしたことはなかったんですけどね。ははは。まあいいじゃないですか。

加賀 しゃべりたくない。そういうことですね。

マリ そうよ！秘密よ。

ハル やっぱり出たんだ。

加賀 出たんだよ。

ハル 幽霊が。(同)

加賀 お化けが。時)

キニー え？何が出たつて？

ハル 幽霊が。

加賀 お化けが。

キニー この二人、よく似たことを言ってる？

ハル いや、幽霊とお化けは違いますよ。

加賀 幽霊はどちらかと言うと和風でしょ。着物着てビュードドロドロって感じ。ちょっと時代に合わない

んじゃないかな？

ハル いやいや、お化けは化け物なんだからいろんな奴がいるでしょ。妖怪やゾンビ、狼男にミイラ男、フランケンシュタインなんかもジャンル入りしますよ。ちよつとリアリティーに問題あります。やつぱ、ここは幽霊でしょう。成仏できなかったせいで化けて出るっていう分かりやすさも大事です。

加賀 今、化けて出るって言った。やつぱ幽霊もお化けの中の1つのジャンルなんです。だったらお化けでいいじゃないですか。

ハル そうやつて広げて行くとポケモンもお化けの一種になって、みんなでサトシを応援することになっちゃうよ。ここは、大人っぽく霊魂で攻めるべきでしょう。

加賀 古すぎ。霊魂じゃワールドワイドにアピールできませんよ。ポケモンでいいじゃないですか。ピカチューでいきましょう。

ハル ピカ、ピーカとか言つてピカチューの着ぐるみ着た幽霊が3階の倉庫に出るのかよ！

間

ハル・加賀 こ・わ。

加賀 それ怖い。

ハル じゃあ、3階の倉庫にピカチューの着ぐるみを着た幽霊が出たってことにします？

マリ それ、わたしに聞いている？

加賀 はい。どうせあとでリセットするんだから、適当に決めても問題ないでしょう。

マリ ピカチューじゃないけど、・・・出たわよ。

キユー え？出たの？

マリ この中に「どこにもドア」を開けてあの倉庫に入った人いるの？

ハル マリちゃん以外に？

マリ そう。プートン加賀。お前、入ったのか。

加賀 いやいや。俺、怖い苦手だから。はははは。(手が震えている)

マリ なんて笑ってるんだよ。

加賀 何でもないっす、はははは。(手が震えている)

ハル　で、マリちゃん。何が、出たの？

マリ　出たって言うか、住んできた。

キユー　倉庫に、誰か住んでいたの？

マリ　うん。

。パチンと音がして停電する。

加賀　わお！

ハル　ただの停電だよ。加賀リン大げさ。

キユー　ハルさん。ペンライトどこだっけ？

ハル　おれが持つてます。ええと……(探す)

ハルがペンライトを灯す。弱い明かり。

加賀　電気も暖房もない地下室に閉じ込められてじっと明日を待つのかよ。勘弁してほしいよな。あれ？……ここに誰かいるよ。誰ですか？

カンが出てきて加賀の隣にいる。子どもである。大きな子供服。短パン。巨大なダンボール箱を抱えている。それをペンライトが照らす。

ハル・加賀　出たー！

マリ　カンちゃん。

キユー　カン、ちゃん？

マリ　ご挨拶なさい。

カン　はい。カンです。よろしく。

間

ハル　子ども？(カンを照らす)

キユー　見た感じ大人。

マリ　大きくなっちゃった子どもよ。

加賀　誰なんですか？

カン カンです。

マリ カンだけじゃ分かんないでしょ。何年生ですか？

カン 小学5年生くらいです。

ハル 子どもだよ。

キユー くらいって、自分のこと5年生くらいとか言うかな？

2、3度点滅してから停電が復旧する。

加賀 やつと点いたよ。暗くて寒くてお腹すいたらこの世の終りだよ。

ハル 大げさだけど、たしかに腹はすいたよな。

カン ぼくもお腹すいたよ、ママ。

マリ 分かった。それ食べていいからね。

カン はい。いただきます。

カン、段ボール箱をおろし、乾パンの缶を取り出し開ける。

キユー マーマなの？マリちゃんが。

マリ そう。今日からわたしが彼のママ。

キユー どういうことなの？

マリ 幻覚だと思う。

加賀 幻覚？

ハル カンちゃん。いいもの持つてるね。おじさんにも一つくれないかな？

カン うん。いいよ。これはもしもの時にみんなで分け合う食べ物なんだよね。はい。(二つわたす)

ハル ありがとう。おじさんね腹ペコなんだー。乾パンかな、いただきます。

カン めしあがれ。5年前に賞味期限が切れてる乾パンです。

ハル。口に入れていたが、苦しみだす。

ハル う、ううううう……。

カン あれ？

キヌー 古い乾。パンで食中毒！

ハル う、うううう。ううう、うう。うう。

加賀 ちがう？水をくれ？乾。パンがのどに詰まったんだ。

マリ よく分かったな、プートン。でもどうしよう。ハルさん。水は出ないのよ。

ハル うう、うううう。

加賀 待つてろ、ハルさん。俺が何とかするよ。

キヌー なんとかって、どうするのよ、プートン。

加賀 トイレだよ。そのトイレに少しだけど水が溜まつてる。それをコップですくってみる。

マリ トイレの水を飲むつての?!

ハル うう。うううううううううううううう。(勘弁してくれ)

加賀 仕方ないだろ！死んじゃうよ、ハルさん。

ハル うううううううううう(死んだ方がまし)

キヌー 後で記憶をリセットするから大丈夫だよ。

ハル うううう。ううううううううう(そうか。いやだめだめだめ)

カン ジャーン！ここにジュースがあります。

白い半透明ボトルを取り出す。

マリ カンちゃん。それを早く言ってよね。

カン おじさん。ほら。

ハル うううううう。(ありがとう)

ハル、ラップ。飲み。乾。パンは呑み込めたようだ。

ハル うえー。・・・なにこれ？

カン ジュースだよ。ジュースって書いてあるし。

ハル (ラベルを読む)・ラブジュース。

カン それもビチク。だから、みんなのものだよ。ぼくもたまに飲むけど。味はいまいち。ないよりまし
つて感じだね。

加賀、ボトルを取って読む。

加賀 業務用ローション・ラブジュース。

ハル ローション！ラップ飲みしちゃったよ。どうしよう。

キユー でも、ハルさん。命拾いしたね。

ハル まあ、そうだけど、これからお腹がどうなるのか心配だよ。

カン 大丈夫だよ。ちよつとお通じがゆるくなるけど。

加賀 カンちゃん。このジュースどこにあったの？

カン ロッカーの中いっぱいあるよ。もつと飲むなら取ってきてあげよ。いる？

加賀 いや、やめとく。そのロッカーつて3階にあるロッカーのことだよね。

カン うん。ロッカーはたくさんあつてね、いろんなものが入ってる。めっちゃ楽しいよ。

加賀 どんなものが入ってるのかな？

カン いちばん多いのはジェット風船。岡本君や相模さんがロッカーにいっぱい入れてるよ。

ハル 岡本君や相模さんつてカンちゃんの友達かな？

カン きつとね。まだ会ったことはないけど。

キユー その風船つて、どんなやつなの？

カン 今持つてるよ。こんなやつ。

カン。ダンボールから業務用コンドームの箱を取り出し、そこからひとつ取り、膨らませる。

加賀 あ。わかったから。もういいよ。

カン ええ？これからだよ楽しいのは。甲子園みたいにみんなで飛ばそうよ。はいはいはい。

みんなに配る。

キユー ありがとう。カンちゃんさあ。君はその倉庫で何をしてたのかな？

カン 倉庫じゃないよ。みんなが着替えたりお弁当食べたりするところだよ。

マリ 空室って札が貼ってあったんだけどさ。きつとあれ文字がかすれて消えたのよ、手へんが。

キユー 控室！

ハル ああ！ちよつと待つてくさいよ。この古い風谷ビルビルの凶面凶面のですね。風谷つてところ。

加賀 風谷の谷の横に人へんがあつたんじゃないかな。消えちやつてるけど。ほら。

キユー ……人へんつけて音読みだわ。

カン かくれんぼしてたんだよ。ママが鬼でぼくが隠れるんだけどね。今日はなかなか見つけてもらえなかった。いつものロッカーロッカーにいつものように隠れてただけなのね。

キユー いまも、やつてるの？その、かくれんぼ。

マリ わたしが見つけたからもう終わりよね。

カン マーマ遅すぎ！お腹へこ。へこだよ。

マリ ごめんごめん。缶缶。パン食べようか。

カン うん。ジュースも飲んでいい？

マリ 一気飲みはだめよ。少しずつならね。

カン やったー！

ハル。少し離れたところに箱を持っていく。

ハル カンちゃん。ここに座って食べるといいよ。

カン ありがとう。あつちで大人だけで内緒話するんでしょ。分かつてるよ。

大人たち集まる。

キユー マリちゃん。どういうことなの？

マリ カンはかくれんぼしてたのよ。でも、見つけてもらえなかったんだと思う。

ハル 控室のロッカーロッカーに隠れて、それつきり？

加賀 そんなバカな。父か母は一緒にいたでしょう。何やつてたんですか！

マリ 分からないけど、それっきり忘れられてたみたいなの。

キユー それで、カンちゃんはどうぐらいの時間隠れてたの？

マリ あの感じだと、20年くらいかも。

みんなでカンを見る。乾パンを食べている。

マリ わたしがロッカーを開けた時、カンは眠ってたのよ。もう、心臓止まるかと思った。

「ビルのメンテナンス会社の作業員Mが廃墟と化した雑居ビルで死体を発見」って見出しが頭のことあたりに浮かんだわよ。どうしよう！写真にとられるんだつたらもつといい服着てきたらよかった。

キユー そこ？

マリ でも、カンは目を覚ました。そして言ったのよ、「ママ、遅いよ。ぼく寝ちやつたみたいだよ」。

キユー 20年ぶりだからマリちゃんを母と間違えた。

マリ いいえ。他に誰もいなかったからよ。他に誰もいなかったから目の前のわたしをママって呼んだの。

キユー 生まれたばかりの鳥のひなみたいに？

マリ そう。生きていくにはそうするしかないでしょ。

加賀 にわかには信じれない話だよ。20年もかくれんぼしてたってか？

ハル いやいや。そんな人間いるわけないって！

加賀 人間・じゃない？

ハル 幽霊とか？

加賀 お化けとか？

マリ そうだと思う。わたしたちは幻覚を見てるのよ、きつと。

みんなでカンを見る。カンは笑顔で手を振って応える。

ハル けっこう。フレンドリー。

マリ カンはわたしの子どもよ。わたしが今朝、ロッカーで生んだことにします。

キユー でも幻覚なんですよ。

マリ 幻覚だろうとなんだらうと、わたしの子どもです。いいでしょ。誰にも迷惑かけないんだし。

キユー それはそうね。・・・ま、いっか。

ハル ええ？幽霊が出るけど誰にも迷惑かけないから、まあいいかって？

加賀 お化けかもしれないけど誰にも迷惑かけないから、まあいいかって？

キユー その二人。子どもは親を選べないでしょ。出てきてみたらここだった。そういうことよ。

マリ こどもにとつては、どこにも行けないどこにもドアなのよね。

ハル わかりましたよ。そのかわり幻覚に、わたしには近づかないように言ってくださいね。

加賀 俺もそれをお願いします。そういうのダメなんですよー。

カン 何がダメなの？(来てる)

間

ハ・加 わっ！

カン あ、びつくりさせちゃった。ごめんなさい。大人の内緒話、まだ終わらないのかなって。

マリ カンちゃん。大人の内緒話はもう終わりました。ママちよつとお花摘みにいつてくるから、ここにいい子にしてるのよ。

カン はい。

マリ。バケツを持って、トイレに行くこうとする。

ハル マリちゃん。トイレはね。

マリ 分かってる。水は流さないわよ。

マリちゃん。トイレに入り、ドアを閉める。

カン マーマはマリちゃんって名前なの？

キユー 本名じゃないと思うけど、ここじゃそう呼んでるよ。

カン あ、源氏名でしょ。お店で使う名前。

キユー カンちゃん、難しいことば知ってるね。

カン もう5年生くらいだからね。知ってるよ。

キュー その、「5年生くらい」っていうことはよ。4年生とか6年生とかかも知れないってこと？

カン うん。ちよつと自信ないんだよね。あんまり学校に行ってないから。

キュー そうか。普段は何して遊んでるんだ？

カン かくれんぼ。

キュー 他には？

カン 他には、ないよ。かくれんぼばっかだよ。

キュー ……なんかして遊ぶか？みんなで。

カン ええ？いいの？やったー！

ハル その、「みんなで」ってところが気になるなあ。

加賀 俺たちを巻き込まないでください。

キュー 何がいいかな？

カン かくれんぼ！

ハル いやいや、俺たちこの地下室から出られないんだから無理だわ。

カン マーマが言ってたけど、もうここからは出られないの？

加賀 いや、明日になったら「はや漏れ救急隊」が到着して救助されるから大丈夫。

カン 「はや漏れ救急隊」って磁石になつてるやつかなあ。

ハル そう。これ。70分8000円。

カン それお薬だよ。ほらこれです。袋に救急隊って書いてあるでしょ。(取り出す)

加賀 お薬？

カン うん。電話するよね、誰かが郵便受けに届けてくれるんだよ。

ハル ……あ。そうなんだ。水漏れを修理してくれる人が来るわけじゃないんだね。

カン このお薬が救急隊だからね。人は誰も来ないよ。

加賀 漏れるのは水じゃなかったんだよ！70分って、…持続時間も。(小声で)

ハル 70分で・・・8000円もするんだよ。よっぽど困ってる人が電話するんだろうな。

加ハ ははははは。(淋しい笑い)

キユー 笑い事じゃないよ。どうするんだよ。

加賀 キユーちゃん、大丈夫ですよ。待つてたら誰か来ますから。ここは都会のと真ん中ですよ。

ハル そうですよ。日本一長い商店街もすぐそこにあるし。

キユー どうかわかんないよ。ビルの入り口には「閉鎖中」って看板立てたからな。このまま一週間とか。

加賀 一週間!?

カン 大丈夫だよ。乾パンとジュースがあるし。

ハル それ、できたらやめときたいな。

キユー さ。暇つぶしになんかして遊ぼうかなあ。何がいいかなあ、カンちゃん。

カン 掃除。

加賀 は？

カン 掃除がしたい。

キユー それ、遊びなの？

カン すごく掃除がしたい。

ハル いやいや、ここのみんなはね。毎日朝から晩まで掃除してくたくたなんだよ。なのに、今から掃除はきついわ。

加賀 しかたない。俺がやるわ、カンちゃんと掃除します。

キユー いやいや、わたしがやるよ。

加賀 いいって、俺がやるよ。

キユー わたしがやります。

加賀 俺がやるって。

ハル じゃあ、俺がやるよ。

2人 どうぞどうぞ。

ハル 何だよ、もー。

カン ハルさんお願いします。

ハル はい。じゃあ、掃除しまーす。疲れてるから手抜きでやりますよ。掃除してるふりしまーす。できるだけ塵とかゴミが集まらないよう撫でるように箒は使います。塵が集まっちゃうと塵取りを使うことになって余計に疲れますからね。いいですかー？撫でるようにね。

キュー ハルさん。いいかげんなこと言ってるのでまじめに掃除してくださいね。

ハル ええー？こーいうやついたなあ。風紀委員とかでさ、うるさいんだよな。

カン 箒は床を撫でるように使うんだ。勉強になるなあ。

ハル そう。それでいいんだよ。ぜんぜん塵が集まってこないだろ。カンちゃん上手！

カン だんだん楽しくなってきた！もっと掃除したい！

加賀 もっと言ってもさ。こゝあんまり散らかってないじゃん。まず散らかしてからじゃないか？

キュー まず散らかして、その後掃除する。ってこと？

加賀 そう。どこかにゴミ箱ないかな？

ハル はあ？ゴミをぶちまけてからそれをまた掃除するってか？

カン あ。あります。こゝに紙屑がいっぱい。

カンが持ってきたダンボール箱に丸まった半紙がいっぱい入ってる。

加賀 いいじゃんいいじゃん。これぶちまけてから掃除しよう。はーい。ハルさん。

加賀がひとつ取ってハルに投げてよこす。ハルは華麗にキヤツチ。

ハル はーい。カンちゃん。

ハルがカンに向けて投げる。カンも華麗にキヤツチ。

カン じゃ、キューちゃん。

カンがキューに投げる。華麗にキヤツチ。

キュー ほれ！プートン！

暴力的なタマがプートンを襲う。

加賀 キューちゃん、ひどすぎ。もう、どんどん投げちゃうよ！ほらほらほらー！

加賀が投げた丸い半紙を他の3人が加賀に投げ返す。雪合戦か運動会の玉入れのよう。もちろん客席にもいくつか飛び込む。いつの間にか加賀は箒でタマを打ち返したりしている。キューが、持っていた半紙に書いてある文字に気付く。

キュー はい終了ー！終了しまーす。

カン これからだよね。掃除が始まるんでしょ。わくわくするなあ。

ハル カンちゃん。ちよつと休憩しよう。(息が上がっている)

キュー これ。お習字だよね。

広げて見せる。「世界平和」と書いてある。

キュー 世界平和。

ハル 小学校の教室の、後ろの壁に張り出してあるやつ？

ハル、いくつかの丸まった紙を広げてみる。他のもみんな「世界平和」である。

キュー これ、カンちゃんが書いたの？

カン うううん。ぼくじゃないよ。

キュー わたしは書いたことあるよ。世界平和。でもね。ある日無くなつたのよね。

ハル 赤い〇つけられて教室の後ろに張り出されてたお習字が？

キュー うん。何回も書き直してやつとうまく書けたやつだよ。それが朝来てみると、無くなつた。

加賀 それさ、誰かの嫌がらせだよ。きつと。

キュー 三学期が終わる日に見つかったんだけどね、びりびりに破かれてくしゃくしゃにされてた。

ハル 世界平和がびりびりでくしゃくしゃに…

加賀 たいしたことない。気にしない気にしない。ただのお習字だよ。さ、つづきやろうぜ。

キュー わたしは分かる。自分が大切にしていたものがびりびりでくしゃくしゃにされたときの気持ち。

ハル これを書いた子どもたちも、きつと大切にしてたんだよね、「世界平和」。(キューからもらう)

キュー カンちゃん。このくしゃくしゃのお習字はどこにあったの？

カン 3階のロッカーだよ。

加賀 3階の、ロッカー？

カン 熟女クラブのロッカーだよ。ほら、先週加賀りんが開けてたあのロッカーですよ。

加賀 え？なんのこと？

カン 暗くなつてから「どこ」にも「ドア」を開けて加賀りんは入ってきたんです。そこに僕が居るのには気づかなかつたんでしょう。そうつとロッカーに何かを……

キユー 何かを、入れて。

カン そして、慌てて出て行きましたよ。

キユー プートン加賀。どういふことだよ。

加賀 いやいや、俺がそんなことするわけじゃないですか。

ハル 手が震えてるよ。

加賀の手が震えだす。

キユー なにか隠してるな、プートン加賀。

加賀 ちがいますよ。だいたい、どうして俺がお習字隠すんですか。

カン、ハルが持っているお習字をとる。

カン その日のお掃除の時間、たまたま一人になった加賀りんは教室のうしろに貼りだされてたキユーちゃんのお習字を見て、なんだか無性に腹が立ってきたんです。だから、それを破つて丸めて誰も使つてないロッカーに隠したんでしょう。

キユー ひどいー！

ハル ひどすぎだよ。加賀りん。謝つた方がいいよ。

加賀 あの。想像だけで人を非難するのはやめましょう。きっとそのお習字は俺が来る前からそのロッカーにあつたんですよ。俺が入れたんじゃないやありませんよ。

ハル あれ？

キユー あれ？じゃ、やっぱり「どこ」にも「ドア」を開けて控室に入ったんだな。プートン。

加賀 あ。

ハル やっぱり何か隠してる。

加賀 ……あなたたちは知らない方がいいですよ。

ハル それ言われると、余計に知りたくなるんだよ。

キユー 後でリセットするからいいじゃないか。話してみ。何を隠してたんだ？

カン じゃあ一緒に、お習字も隠したことにしましょうよ。

加賀 お習字は隠してません。…井倉ビルメンテのみなさん。おかしいと思いませんか？来月から新しいテナントが入るからってことでわたしたち仕事してますよね。

キユー そうだよ、けっこう納期きついけどね。

加賀 でも、築100年の雑居ビルにテナントとか入りますか？

ハル 築100年なの？古いとは思ってたけど、そんなに？

加賀 だいたい耐震基準的にアウトですよ。なのにスプートニクの本社は井倉ビルメンテを締め出してこのビルの管理権を手に入れようとしてるんです。変でしょ。

カン お習字を隠したかったから。そうじゃないかな？

加賀 カンちゃん。大人の話するからちよつとの間、黙っといってくれるかな。

カン うん。でもお習字も大事なんだよ。

加賀 どうでもいいんだよ！お習字なんか！今はもっと大変なことが起こってるんだよ！

加賀、カンが持っているお習字を奪い取りびりびりのくしゃくしゃにする。

カン (泣く)

キユー プートン。それ、アウトだよ。

カン (泣く。大声で)

加賀 ごめん。カンちゃん。つい大声出しちゃって。ほんとごめん。

これを合図に、やっつと、トイレからマリ出てくる。

マリ お待たせー。ちよつとトイレに時間かかっちゃったけど、大きいほうじゃないのよ。身だしなみを整えてたつてことよ。そこどころ誤解なくね。あれ？なにやってるの？みんな。

カン (大声で泣く)

マリ あらあらどうしたのカンちゃん。大泣きしてるけど、なにかあったの？

カン 加賀リンが、いじめたー！(泣く)

マリ プートン！あなた何したの、カンちゃんに。

加賀 何もしてませんよ。

キユー プートンが暴力をふるいました。

加賀 いやいや、手は出してないし。

キユー ことばの暴力です。

カン ぼくの純粋な気持ちがびりびりでくしゃくしゃだよー(泣く)

加賀 えー

マリ プートン加賀。それ、普通の暴力よりダメなやつだよ。

キユー それに、プートンは私のお習字を……(泣く)

マリ お習字？

キユー びりびりでくしゃくしゃにして隠してました……(泣く)

加賀 いやいや、それは本当に違いますからね。泣きすぎ二人とも。ハルさんなんか言ってやってください。

ハル 加賀リン。(泣く)

加賀 ええ？なに？

マリ 3人とも泣かした。

加賀 ハルさんはどうして泣いてるんだよ。

ハル みんなが泣いてるし、俺も泣いところかなって。(泣く)

加賀 あり？そういうの。

マリ よくわからないけど、みんなプートンが悪いのね。

3人 (うなづく)

加賀 先生。ちょっと俺の話聞いてくれますか？

マリ 先生？

加賀 マリちゃん先生。おれはほんとに何も悪いことしてないですよ。みんなの誤解です。

マリ ……プートン・君。先生、ちょっとわかってきたわよ。ここは小学校で、小学生たちが、放課後揉めている。そこに救世主、担任のマリちゃん先生がトイレから帰ってきた。それでいい？

加賀 完璧です。

マリ プートン君。君が何をやっちゃったのか手短に先生に話してみ。

加賀 手短にですね。えーと、くしゃくしゃのお習字でキャッチボールしてたらですね、「世界平和」が出てきて都合が悪くなったから、カンちゃんを怒鳴りつけました。あれ？

マリ プートン君。明日から無期限停学処分に処する。

加賀 えー、小学校つて義務教育じゃなかったんですか。

キユー 先生。ここはスッポンでスポスポじゃないですか？

ハル それ、体罰じゃないの？

カン 演劇の稽古をしてたつてことにしたらいいんじゃないかな。学芸会の出し物で加賀リンがスポスポされるシーンを稽古したら、指導に力が入ったマリちゃん先生が本当にスポスポしちゃうんだよ。

キユー それ、ありがちだわ。

カン 演劇なんだから密室で稽古するし、大声で叫んでも誰にも怪しまれないよ。そうだ。後で問題になった時のために台本を用意しときましようか。

ハル 巧みな偽装。

カン ちがうよハルさん。小学生たちの無邪気な課外活動だよ。

加賀 あの、ちよつといいですか。そのスポスポする体罰つて、具体的にはどんなやつなんですかね？

マリ やってみる？

加賀 いやいいです。でも一応話だけ聞いてごうかなつて。

マリ このスッポンでね、あなたの

カン 先生。それ言っちゃうと体罰の効果が薄れます。どんなものか分からないほうが効果的ですよ。

ハル カンちゃん。どういうこと？

カン 細かいことがわからないほうが怖いでしょ、加賀リン的には。

加賀 まあ、そうだけどね。

カン 言うこと聞かないとスポスポするぞってのが普通の使い方です。「言うこと聞かない子は赤鬼が連れてつちやうぞ」って言っても、その時になって被り物の赤鬼が出てきたらただのお笑いですよ。

キユー なんか、カンちゃんキャラクター変わってない？

ハル うん。

カン そうかなあ。普通のことだよ。こうやって、みんなで加賀リンを追い詰めましょうよ。

加賀 あのさ。俺ってそんなに悪い奴なのかな？

マリ プートンは悪い奴なんですよ。言葉の暴力でカンちゃんをいじめたり、キユーちゃんのお習字を破いたりしたんですよ。

加賀 まあ、反論もあるんだけど、もしもですよ、もしもそれが本当だとしてもですよ。そんなに悪い奴ですかね？

カン 悪い奴なんだけど、すごく悪くはないってこと？

キユー お習字は破いたけどプートンにとつてはたいしたことないってこと？

ハル カンちゃんに言葉の暴力をふるったけど、プートンにとつては大したことないってこと？

加賀 分かりました。もういいです。体罰でも、学芸会でも何でもいいです。甘んじて受けますからやってください。はいどうぞ。

カン いいの？

加賀 いいですよ。スポスポでしょ、さっさとやってください。はい。(おしりを突き出す)

マリ わかった、おしりにスポスポしていいのね？やっちゃいましょう。

キユー いいのかプートン。どうなっても知らないぞ。

ハル スッポンで体の中の体液が逆流するかもだぞ。

カン それ怖い。スポスポって思ったよりすごいんだね。

加賀 ……ちよつと待つてください。ほかの体罰にしてもらっていいですか。

マリ それはないわよ。やる気になってるのに。

カン 一階に行つて様子を見てくるつてのはどうでしょう？

間

加賀 え？

カン 上の階には危険な液体が撒かれてるんでしょう？それが、どれくらい危険なのか、加賀りんに調べてもらうんだよ。

キユー どうやって？

カン 上の階に行つて深呼吸する。

ハル 死んじゃわない？

カン このマスクなら大丈夫だよ。(加賀のガスマスクを持っている)

加賀 いや、それアマゾンで1880円で買ったやつだし。

キユー レプリカじゃん。

カン それでもないよりましだよ。そして誰かに助けを求める。ここに閉じ込められてる人がいますつて。

キユー 生きてたらね。

ハル そうじゃなかったら？

カン 加賀りんが帰つてこなかったら、上の階は危険だつてわかるよ。

加賀 ……なるほどね。

カン じゃ、お願いします。加賀りん。

マリ カンちゃん。それはだめよ。プートンが死んじゃうかもしれないでしょ。

カン でも、ママ。食べ物は乾パンしかなくて、飲み物はあのジュースしかないんだよ。
このままじゃ、みんな死んじゃうかもしれないでしょ。

ハル ええ？誰か来るでしょう。連絡がないことを心配した井倉ビルメンテの社員とかが。

キユー プートンの会社に吸収されてそれどころじゃない。

マリ そもそも井倉ビルメンテの社員は全員クビよ。

キユー ・マリちゃん、知ってたの？公開買い付けの話。

マリ ええ。プートンから聞いてた。

加賀 マリちゃん。その話はNGです。

マリ NGもなにも、どうせ後でリセットされちゃうんでしょ。

ハル 加賀りん。俺にはどうして話してくれなかったのさ？

加賀 いや。ハルさんには今日話そうかなって思ってたんですよ。

ハル なにそれ、蕎麦屋の出前が遅いから電話したら「今出ました」みたいな言い訳。

加賀 ちょっとピンとこないです。

マリ 先週、プートンは私を待ち伏せしてたのよ。そして3階と4階の踊り場で壁ドンよ。

みんな 壁ドン？

マリ そして、手を握ったまましつこく迫ってくるの。あの熊みたいな体で。

みんな えー！

加賀 絶対誤解してます。

キユー プートン！なんてやつだ。

マリ わたし必死で拒んだたのよ。なのに、プートンったらわたしにお金を……

ハル お金を握らせて、迫った！

マリ (泣く)

加賀 誤解です。勘違いです。

キユー いやいや、人間として最低だぞ。

加賀 本社からの命令ですよ。井倉ビルメンテから作業員をひとり引き抜いておくようにつて。

ハル ……え？

マリ プートンは、力づくでわたしを引き抜いたのよ。(泣く)

加賀 すみません、みなさん。これはもう少ししてから説明しようと思ってたんですが、マリちゃんとはもう契約済みです。

ハル ということは、俺たちはクビ？

加賀 残念ながら、そういうことになります。

ハル なんで？なんでマリちゃんだけ？

キュー わたしは断った。プートンが嫌いだから。

ハル え？

マリ ええ？！プートンどういうこと？キューちゃんにも壁ドンしたの？

加賀 いや、ですから優先順位とか、いろいろと事情があつたんですよ。

マリ どんな事情よ！「初めて見た時からマリちゃんに決めてました。マリちゃんのスッポン捌きに惚れました」って言ってたの、あれは嘘なの？

加賀 嘘じゃないです。本当にそう思っていました。

キュー ちよつと待てよ、プートン。お前、私にもおんなじこと言ったよな。「はじめてみた時からキューちゃんに決めてました。キューちゃんのスプレー捌きに惚れました」とか。

加賀 あ、それもほんとにそう思ってたんですよ、その時は。

マリ こいつ、どういふつもりだよ。ほんとに生でスポスポしちゃうぞ。

加賀 生って、え？何が生なんですか？

マリ パンツもなにもかも脱がせて、生でスポスポだよ。

加賀 すみませんでした。それだけは勘弁してください。

キュー 賛成だよ、マリちゃん。加賀を押さえつけて生スポスポします。

マリ まずキューちゃんの100%アルコールスプレーでプートンに麻酔をかけるのよ。

加賀 すみません。ほんと、そういうつもりじゃなかったんですよ。

キュー 問答無用！食らえ、アルコールスプレー！

加賀 えほえほ。

マリとキューにやられそうになる加賀。それまで、ぼーとしていたハルが叫びだす。

ハル いいかげんにしてくれ！

間。ハル、泣いている。

ハル マリちゃんもキューちゃんも、いいじゃないか。そうやって、再就職の話があったんだから。

キュー 断ったし。

ハル そういうことじゃないんだよ。断ったとか、そういうことじゃなくてさ。俺はさ、プートンと俺はさ会社は違うけど仲間だと思ってたんだよ。なのに、俺にはなんにも・

加賀 ごめん、ハルさん。ハルさんさ、手が震えるだろ。それちょっと問題だなんて思ったんだよ。

ハル 違う違う、俺は再就職したいとか微塵も思っていないよ。ただ、どうして俺だけその話を知らないんだろうって……

加賀 ちがうんだよハルさん。これは本社が秘密裏にやれって言ってきたからなんだ。ほんとは一番にハルさんに相談しようと思ってたんだけどさ。

ハル もういいよ。バーベキューで大事に育ててた肉を、ピーマン食べてるうちに誰かに食べられちゃったとき、一番よく焼けてたからももらいました、みたいな言い訳は。

加賀 ・ぜんぜんピンとこないです。

ハル 加賀。プートン加賀。お前には上の階を偵察に行ってもらおう。

加賀 いや、ハルさん。それ、命にかかりますよ。

ハル 何もないかもしれないよ。何もなくて、平和そのものかもしれないよ。暇を持て余した人々がバーゲンセール中の商店街をぶらぶら歩いてるんだよ。一階からそれが見えて、プートン加賀、お前は「なーんだ」って感じで俺たちに向かってさげふんだよ「何にもないよー！」って。

加賀 もしもそうじゃなかったら？

ハル ……きつと、何もないんだよ！

カン 大丈夫だよ。何かあっても死んじゃうとかはないよ。倒れて救急車で運ばれて、ちょっと入院。大したことにはならないよ。

加賀 どうしてわかるんだよ。

カン カンちゃんのカンだよ。なんちゃって、はははは。

加賀 暴力ふるっていいかな？

カン えー、子どもに暴力はだめです。子どもはみんなの宝物なんですよ。

加賀 自分で言うな。

カン じゃ、そろそろおわりの会も時間が来たので、多数決で決めますよ。

キユー 多数決？

カン うん。ぼくが「加賀リンが上の階の様子を見に行くのがいいと思う人」って言うから、そう思う人は手を挙げてくださいね。多数決には従ってもらいます。いいですか。

加賀 すごい暴力的。

カン ええ？学校じゃみんな多数決じゃないの？それが民主主義だって勉強したよ。じゃ、いきまーす！

マリ ちょっと待って！少し考える時間をもらえる？

カン だめでーす。下校時間はもう過ぎてまーす。やります。「加賀リンが上の階の様子を見に行くのがいいと思う人」？

一瞬の間。みんなの逡巡が感じられるような。

加賀 俺、行ってくるわ。(手を挙げる)

キユー ・・プートン。

加賀 多数決とか関係なしで、上の様子見てくるわ。

マリ 大丈夫なの？

加賀 たぶん何とかかなと思う。

ハル ・・これ、持ってけよ。(タバコを渡す)

加賀 ありがとう。でも、そんな余裕あるかな？

ハル 最後に一服だよ。

加賀 あ、最後にね。ありがとう。

カン 加賀リン。ガスマスク忘れてるよ。(渡す)

加賀 1880円だけどね。最後になるかもしれないから一応伝えときますよ。スプートニク本舗は

このビル管理をある宗教学法人から請け負っています。

キユー 宗教学法人？

加賀 地下のこの部屋は礼拝堂として改装するようです。

ハル 教会にしちゃうってこと？

加賀 まあ、そうですが、普通じゃないですよ。

ハル どういうこと？

加賀 ビルの外装はシエアハウスにカムフラージュして宗教施設であることは隠すようだし、この礼拝堂は核戦争に備えてシエルターにもなるようにリノベーションしますよ。

キユー それもリノベーションって言うのか。普通じゃないな。

加賀 とんでもない額のお金がかかりますよ。しかも、ビルの使用目的を偽装するのにかなりの政治力が必要です。でも、軽々とクリアしました。

ハル 加賀りん。何が言いたいんだ。

加賀 ハルさん。もう一度おんなじこと言いますよ。「そして、どこにも……神はいなかった」。じゃ、これで失礼します。

舞台奥の階段に通じるドアを開ける。2階から不穏な音。連続する爆発音。

加賀 ええと、あつちから行つていいですか？（トイレ側）

カン どちらでもおなじだよ。加賀リン。（つかまえる）

加賀 行きますよ。行きますから、押さないでくださいよ。絶対押さないでくださいよ。

キユー 押してほしいのか？

加賀 お願いします。

カン GO！

カンが加賀を押すと加賀はガスマスクを装着しながららせん階段を登っていく。
カンがドアを閉めると爆発音が止む。間。

ハル ……静かになった。

ハルとキユーが散らばった半紙を掃除し始める。その後マリとカンも。

カン ほんとか。加賀りん大丈夫かなあ？

マリ カンちゃんさ。今の「加賀りん大丈夫かなあ？」ってどういう意味？

カン 大丈夫じゃなかったら。ぼくたちここから出られなくなるでしょ。困っちゃうなあって意味。

キユー プートンがどうなつてもいいのか？

カン 誰かが犠牲にならないとどうしようもないでしょ。

ハル 誰かつてそれ、わたしでもよかつたんだろ？

カン まあそうなんだけど、多数決とつたらみんな加賀りんを選んだでしょ。ぼくはそう思ったよ。それでね、これで1人減ったから乾パンの配給が楽になるよ。ひとりにひと缶。ジュースはみんな分けてのむことになるけどね。

マリ カンちゃん。ママはそういうことを言うカンちゃんがあんまり好きじゃありません。

カン えー？どうしてなの、ママ。ぼくはここにいるみんなを幸せにしたいんだよ。

マリ だからつてプートン加賀を犠牲にしているとは、ママは思いません。

カン マーマ。子どもみたいなことを言うんだね。「世界平和」にだつて誰かの犠牲がいるでしょ。

マリ カンちゃんは大人みたいなことを言うのね。だから教わつたのかな？

カン マーマだよ。最初のママ。

キユー 最初の？20年前のママつてこと？

カン そう。ママは「世界平和」に行く時、いつもそう言ったんだ。誰かの犠牲がいるでしょつて。

ハル 「世界平和」に、行くの？

カン 「世界平和」に行くときママは何日も帰つてこなくなるんだけど、ぼくは我慢してたんだ。「世界平和」にはぼくの犠牲もいるんだよね。

キユー 世界平和つて、もう少しぼんやりしてるものだと思つてたけど、そこに行けるの？

カン ぼくは行ったことはないけど。ママは行つてたよ。でも、「世界平和」は大変なところなんだよね。帰つてきたママはいつも疲れ切つてたよ。

ハル 世界を相手にするんだからね。そりゃそうだろう。

マリ 最初のママはその「世界平和」で何をしてたの？

カン あんまり教えてくれなかったけど、「世界平和」にはお金がたくさんいるんだって言った。だから、お金を作ったり戦う準備をしてるって。

キユー お金を作つて、戦う？ぜんぜん平和じゃないじゃん。

カン キユーちゃんも子どもみたいなこと言うんだね。「平和」は向こうから歩いてこないんだよ。戦つて、やつつけて勝ち取るもんなんだよ。

ハル 誰と？

カン え？

ハル 誰と戦つてやつつけるの？

カン それは・・・内緒なんだ。

キユー みんなには内緒で戦うつてこと？

カン うん。サタンには内緒。原罪を償つて天国に行けるようになるまでは本当のことをしゃべっちゃいけないことになってるんだ。

ハル (自分とキユーを指さし)ひよつとして、俺たち、サタン？

カン うん。

マリ (自分を指さし)ママも？

カン ・最初のママがそう教えてくれたんだよ。ぼくはそれは少し変だなあつて思ったんだけど

マリ ママが言うことを信じた。そりゃそうよね。

カン でも、熟女クラブが閉店することになっちゃった日に、いつものように出かけて行つたママは帰つてこなかったんだよね。

キユー かくれんぼしてたカンちゃんを残してね。

カン うん。

マリ 大丈夫！今はわたしがカンちゃんのママだよ。

カン うん！

上の階で誰かがトイレの水を流す音がする。けつこう大きく。

マリ あら、何の音？

キュー 誰かが上の階のトイレを流した。

ハル ええ？まずいんじゃないの？オキシッコーとトイレデハイターが混ざっちゃうんでしょ。

マリ どうしよう。誰がトイレを使ったのよ！

カン 加賀りん？

キュー メンテナンス中のビルには誰も入れないよ。出入り口は閉鎖されてるし。

ハル 加賀りん、生きてたんだよ。

マリ でも、どうしてプートンがトイレの水を流すのよ。危険だって分かってるでしょ。

キュー プートンじゃなかったら、誰なの？

カン 誰かが僕たちを抹殺しようとしてるんじゃないかな。

ハル あ。まずい！まずいですよ、みなさん。あれ見てください。

ハルが指さす方を見ると、トイレの方から地を這うように白い気体が押し寄せる。

マリ えー！なんかモクモクしたものがこっちに来てるわよ！死んじゃうの？わたし達。

キュー こっちから逃げましょう。(らせん階段のドア)

ハル。開けてみてすぐ閉める。

ハル こっちからも来てるよ！

マリ キヤー！神様、助けてー！

キュー マリちゃん。神様はいないんだよ、ここには。

ハル 誰がいる。誰だ！

モクモクの中をトイレ側の階段から加賀出てくる。ガスマスクをしている。それを取って。

加賀 ご無沙汰してます。井倉ビルメンテのみなさん。

マリ プートン加賀。

加賀 スプートニク本舗の加賀は生きて帰ってきましたよ。ははははは。

キュー ここですういうふうに笑うとやられるために出てきたラスボスだぞ。

ハル プートン加賀。上の階のトイレを流したのはお前か？

加賀 そうですよ。気分はどうですか？みなさん。はははは。

カン。ダンボール箱の底から鉄パイプ銃を取り出し構える。

マリ カンちゃん。なによ、それ。

カン 銃だよ。

キユー よーし。撃つちゃおう。

カン おもちやの鉄パイプ銃だよ。

ハル ええ？おもちや構えてるけど？

加賀 あ。まずいつてカンちゃん。その銃には実弾が入ってたよ。

カン 知ってるよ。熟女クラブのロッカーに加賀リンがこれを置いて行った時、これはただのおもちやじゃな
いなってピンときた。

マリ ええ？おもちやなんですよ。

加賀 殺傷能力があるおもちやです。先週、4階のトイレの隠し扉の向こうで見つけました。

キユー なんて、そんなものが？

加賀 さあ、このビル100年に建ってますからね。いろんな物が置き忘れられてるんですよ。

ハル すぐに警察だろ。

加賀 警察はまずいんですよ。騒ぎが大きくなると新しいテナントに迷惑がかかるって。

マリ プートンの本社がお前に揉み消すように言ったんだな。

加賀 すみません！やっぱり届けますよ、警察に。行こう、カンちゃん。

カン 加賀リンは僕たちを抹殺するつもりなんだろ。

加賀 あ。このもくもくは霧だよ。タンクに残ってた水が氷点下の空気にさらされて霧になったんだよ。

キユー 霧？危険なガスじゃなくて？

加賀 実は4階のオキシコーも3階のトイレデハイターも下水道に流れた後でした。安全を確認して
一階のトイレを流したらこうなったんです。

マリ びっくりさせないでよ。

加賀 すみません。

キユー 上の階はどうだったんだプートン。

加賀 上の階は何事もなく普通ですよ。ただ、ビルの外が変です。

ハル 外が変って、何が？

加賀 見てみますか？行きましょう。

マリ 大丈夫なの？

加賀 深呼吸しても大丈夫でしたよ。

加賀、キユー、ハル、マリ行こうとするが、カンは銃を持って残る。

キユー カンちゃん。

カン ぼくは行けないよ。

マリ 何言ってるの、ママがついてるから大丈夫よ。行こう、カンちゃん。

カン マーマ。知ってるんですよ。ぼくが幻覚だつて。

ハル ・カンちゃんは、自分のこと幻覚だつて思ってるの？

カン うん。幽霊とかお化けかもしれないけどね。人間じゃないよ。

キユー いいじゃん。人間じゃなくても。みんなでここから出て行こうよ。そうだと、ハルさん。

ハル ええと、まあ、そうだよな。普通じゃないビルになっちゃうんだから出て行った方がいいよ。そうだと、加賀りん。

加賀 ああ、出て行こう。出て行って、マリちゃんと暮らそうよ。

マリ そうしよう、カンちゃん。

カン 「世界平和」のお習字を書いたのは、キユーちゃんじゃなくて最初のマーマだよ。それをくしゃくしゃにしたのはぼく。それをロッカーに隠したのもぼくだよ。「世界平和」が嫌いなんだ。

キユー 「世界平和」が嫌いなのか。

カン うん。大、大、大っ嫌いなんだ。

ハル わかったよ。わかったから、その物騒なもの置いて俺たちと一緒に行こう。

カン ありがとう、みなさん。でも、幻覚はこのビルの中だけで見えるんだよ。だから、僕はまたかくれんぼを続けることにするよ。

加賀 そうか。・じゃあ、ここでお別れだ。

マリ カンちゃん。

マリ。走り寄り、カンを抱きしめる。

カン う。あぶないよママ。銃持ってるんだよ。

マリ 元気で暮らすのよ。

カン 幻覚が元気づてどういう感じなのかな。

マリ 元気な幽霊とか元気なお化けでいいじゃないの。

カン はい。

キユー じゃ、みなさん。非常事態を解除します。いいですか。今日この地下室で起こったことはすべてリセット、地上に出たらすべて無かったことにします。いいですね。

みんな はい！

カン さようなら。

4人、個々にさよならとかバイバイとか言いながら階段をのぼり始める。。

ハル それでさ。ビルの外が変わってどういうことなんだ加賀りん。

加賀 人が居ない。

マリ どういうこと？

加賀 ひとつこひとり歩いてない。

キユー 寒いからだろ？

加賀 でも、車も一台も走ってないし、シーンとしてるんだよ。

ハル それおかしいよ。どうなってるんだよ。

加賀 さあ。

マリ ひよつとして、わたし達も幻覚だったとか？

キユー あー、あり得る。こっちから見えないときは、あつちからも見えないんだ。

ハル あれー、ほんとだ。誰もいないぞ。さつぶー！さつぶすぎー！

階段をのぼりきつている。最後にカン。

カン 行っちゃいましたね。リセットされて、いなかったことになった僕はなぜか今、少しほつとしています。しばらく出番はないので、この銃とつしよにかくれんぼすることにします。じゃ、行きますよ。まーただだよ！

カン。らせん階段のドアを開けて去る。「まーただよ」と何回か叫ぶ。いきなりガシヤツと停電。「あ、停電だー」

おわり 2022年11月27日